令和２年度（2020 年度）第１回
北海道史編さん委員会政治・行政部会議事録

日　時：令和３年（2021 年）３月 31 日（水）13:00～14:20
場　所：北海道庁別館９階　第２研修室
出席者：山崎部会長、前田委員
事務局：靏原室長、杉本主幹、和田主任

１　開　会

２　議　事
（１）各委員の進捗状況報告について
（２）担当分野の調整について
（３）その他

３　閉　会

1　開会

【事務局】

・令和２年度（2020 年度）第１回北海道史編さん委員会政治・行政部会を始めます。司会進行は山崎部会長お願いします。

2　議事１（各委員の進捗状況報告について）

＜資料 1-1：山崎委員＞

【山崎部会長】

・それでは議事の１番目として、今までの成果についてお互い確認していきたいと思う。
・まずは私から。資料 1-1 にあるとおり、道史編さんの資料収集や執筆に先立って、鍵となる人物へのインタビューを柱にしてきたのが１点目の特徴。またインタビューをする人物のことをより深く理解するための資料も事務局に集めてきてもらっている。
・もう１つは、2019 年 2 月に道立文書館の書庫の調査を行い重要な資料については事務局に複写をしていただいた。また、2021 年 2 月にも再度、道立文書館において調査行い、改めて資料を確認してきた。現時点でいうと道立文書館が所蔵している資料を見た限り、新資料というのは発見されなかった。
・逆にいうと、これから『資料編』を作っていくときにどのような資料をどのように載せるかというのは、これまでとは少し別なものの見方で、『資料編』に載せるべき重要な出来事とその出来事に付随してどんな文章が作られていたのかという観点で考えていきたい。
・例えば、各出来事や事業に対して行政機関が「報告書」を作っていることは分かっているが、そういったものがきちんと残されているかというと全然残っていなかったりする。そういった「報告書」類を発掘したいと考えている。
・私の資料収集の状況についての説明は以上。続いて前田委員からどういった観点でどういった資料を集められてきたのかについてご説明いただきたい。

＜資料 1-2：前田委員＞

【前田委員】

・私も山崎部会長が言われたように戦後北海道史上の重要な出来事に関わる資料をまず集めたいと思っていたのだが、歴史上の重要度と資料の残り方の濃淡が一対一で対応しているわけではない。他方で、さほど大きな広がりはない出来事でも、掲載したら面白そうな一点資料もある。
・『通史編』の記述の濃淡や軽重の配置と、『資料編』の濃淡や軽重の配置が違ってきてしまうことはある程度不可避的だと考えている。
・今年度は、国立公文書館等で収集した一部を除き道外調査ができず、道内調査に集中せざるを得なかったが、道内各地域で基礎資料を集めることもできたので、足腰を固める意味があったように捉えている。
・資料調査で特に力点を置いていたのは、政党、利益団体、運動の３者。政党に関しては、『資料編』でどこまで使える比率があるかまだわからないが、今年度は「永井勝次郎関連文書」（北見市）等を見てきた。仮に『資料編』に直接反映できる余地が少なくとも、『通史編』の執筆には生きてくるだろう。
・利益団体では「全道労協資料」を労働資料センターで、「北海道炭鉱労働組合関係資料」を道立図書館で収集してきたが、政党関係あるいは選挙関係は『資料編』にも使えそう。多くの人にこういう発見があったんだということを気付いてもらえるような資料を掲載できると思っている。
・漁業については、団体というより個人に関するものだが、根室・函館での資料調査で幾つか興

味深いものがあった。また、回顧録のような刊行物であっても、根室にしかないもので貴重なものであれば『資料編』に使えるものはあるのかなと思っている。信漁連の調査はまだ進行中という状態。これ以外では、農民団体についても、今後東京で新資料が収集できる見込み。
・北方領土返還運動についても、根室で収集した北方領土返還運動関連の団体資料は『資料編』で使えると思う。
・道政や北海道開発の行政的な部分はどこまで新しい資料が出てくるかというと難しいと思う。ただ、分県論関係では、道立図書館所蔵分以外でも幾つか興味深い資料も見つかっているし、「政治一般」、「対ソ・対韓」、（政治争点化した）「北海道開発」に関係するものであれば、それなりに充実してきた。
・分野として弱いのは、「財政」や「市町村」といったところで、『資料編』に載せられる資料にはまだ出会えていないし、調べてられていない状況。
・時期として非常に弱いのが占領期で、例えば食糧問題や政党関係は収集してきているものの、対日占領政策や GHQ の資料は政治・行政編である以上、かなり調査を行っていく必要があると思うが全く手つかずという状況。
【山崎部会長】
・精力的に資料収集をしていただいているが、全体の何割ぐらい到達できている印象か。
【前田委員】
・今年度、東京をはじめ道外に資料調査に行けなかったことは結構大きい。JA 全中の資料を見ていないというのが１つ。あと一橋大学に所蔵されている都留重人の占領期に関する資料もまだ見ていない。占領期は、国立国会図書館憲政資料室や国外にある GHQ や国務省の資料も全く見てない。
・それら以外であれば７割～8 割程度終わっている気がしている。
・占領期の北海道統治（や独立後の北方領土問題）に関してはイギリス国立公文書館（TNA）やアメリカ国立公文書館（NARA）の資料を DVD で取り寄せる方法がある。この他、TNA や NARA ではないが、北海道に駐留した米軍高官の個人文書がカンザス州のアイゼンハワー大統領図書館（Charles W. Ryder papers）や、ペンシルベニア州の陸軍遺産教育センター（Joseph M. Swing papers、Andrew D. Bruce papers）にある。もし取り寄せることができれば、掲載する資料の幅も広がるとは思うが、コロナ禍でもあり相応の時間がかかるかもしれない。他に海外アーカイブでは、以前私が閲覧したものに偶然、戦後初期北海道の金融政策に関する資料を見出すことができた。たとえばデトロイト公共図書館が所蔵する Joseph M. Dodge papers やドイツ連邦準備銀行アーカイブが所蔵する Otmar Emminger の書簡ファイルである。ソ連や旧東ドイツなど東側諸国が戦後北海道（の左派勢力）をどう眺めていたかについても資料があるようだが、能力的・時間的にどこまで追えるかは微妙なところ。
・「外交・防衛」のうち、まず防衛は、防衛研究所で公開されている戦後初期の資料とオーラル・ヒストリー以外は依然めぼしいものに出会えていない。今後、偶然見つかるものはあるかもしれないが。逆に外交については、外交史料館には興味深い内容でありながらいまだ撮影を終えていない資料もあり、今後とも豊かな成果が期待される。ただ、まだ要審査の文書が一定量あり審査に時間がかかる上、定期的に新しい外交公開文書がリストに上がってくるので（最近ではベレンコ中尉亡命事件関係の文書群など）、『資料編』公刊までに閲覧・撮影が間に合わない可能性もある。既に入手済みの韓国の外交史料館が所蔵する外交文書は、韓日漁業交渉における北海道の位置づけについて得るところがあるが、解読に相応の時間を要する。
【山崎部会長】
・冷戦の最前線であった北海道をアメリカ軍・占領軍がどのように見ていたのかという点については、新しい資料が出てくると道史を作る意義が非常に出てくるように思う。
【前田委員】

・さらに追加でインタビューを行っていきたいと考えていて、政治家で道内の社会党系の人物、労働運動で政治に関わった人物には話を聞いていきたい。90 年代の政党再編は非常に大きい影響があったはずなので、当時の状況を知っている人物に話を聞く機会を設けたい。また保守党系の側でも 90 年代の動向は未知のことが少なくない。
・北海道では社会党がほぼ全て民主党に参加するのが特徴的で、その点についても可能な範囲でインタビューしてみたい。ただ、特に現役政治家の場合、インタビュー内容は表には出せないと言われる可能性が高い。そうなると『資料編』には使えないので、『通史編』に生かすような使い方になると思う。

【山崎部会長】
・当時、労働組合などの各団体のキーパーソンだった人達の中には亡くなってしまった方もいるし、人選は大変かもしれない。
・ともあれ、前田委員は政党・利益団体・圧力団体・各種運動団体ということに関しては大体３分の２か４分の３ぐらいまで進展してきている状況については理解した。
・ちなみに北海道開発庁ができた頃の様々な経緯は、アメリカ側の資料をもう 1 回調べ直したら何か新資料や新事実は出てくるだろうか。

【前田委員】
・可能性はあると思う。

【山崎部会長】
・一般的にはある時期からは開発庁の設置問題にはあまりタッチしなかったと言われているが、当初は開発庁を設置するのに消極的だったはずで、最終的にいとも簡単に容認してしまったのは、今ひとつ私も理解しきれていない部分。

【前田委員】
・私の乏しい経験からすると、イギリス国立公文書館はすごく整理が行き届いているので、何がその箱に入っているかはっきりわかるが、アメリカの国立公文書館は、箱を開けてみないと何が入っているのか分からない。初心者には勝手がなかなかわからなかったので、前者ばかりに頼ってしまった。ただ、北海道開発史に関心を持って NARA を調査した人は少ないと思うので、時間をかけて見ていくとこんな資料があったのか、みたいなものはあるかもしれない。コロナが落ち着いたら司書の方に相談してみるのも手。
・国立国会図書館憲政資料室や沖縄県立公文書館がアメリカ各地で集めてくれたものから探す手はある。その中で通説と違う資料が発見される可能性もあると思う。
・あとは当事者の個人文書。前述のように、アイゼンハワー大統領図書館が所蔵している北海道に駐留していた GHQ 高官（ライダー少将）のプライベートな文書には書簡が含まれているようで、そこが DVD にデータを焼いて送ってくれるサービスをやってくれるかどうか（現在はコロナ禍で閉まっているので確認できない。また気軽に閲覧に行ける立地でもない）。公開の目録を見る限り、書簡の具体的宛名までは分からないが、書簡の相手が米国人であれ日本人であれ、おそらくは北海道関係の話が多いはず。個人文書は、公文書よりはあたりをつけやすい。

【山崎部会長】
・では、次年度に補強していくのは、外交・防衛分野等のコロナの行動制限で資料調査が出来なかったところ。それから占領政策について当たりをつけてみると。

【前田委員】
・あと先ほども話題にした JA 全中。目録を見る限り北海道の資料がありそうで期待している。

【山崎委員】
・確かに北海道の JA 幹部が全中の役員になることも珍しくないから、何か出てくる可能性はありそうだ。

【前田委員】

・それと農業関係だと北海道農民同盟の機関紙（『同盟情報』）にまだたどり着いていない。GHQが接収した時期のものだけプランゲ文庫として残っているが、それ以降のものも全北海道農民連盟の『戦後北海道農民運動史』（1968 年）には引用されているから、原紙がどこかにあると思うので、なんとか見つけたい。ほかにも、農民同盟内部の議事録や、対外的な声明書などが所蔵されている（た）模様。

【山崎部会長】

・なるほど。今後の調査予定などについては了解しました。

・『資料編』のイメージはだんだんできてきているか。この資料は使おうとか、これは解説しようというような。

【前田委員】

・大量の資料を収集しており、まだ全て見られていない状況だが、これは絶対に掲載するというのはすでにいくつかある。わかりやすく面白そうな資料から基本的に掲載していこうと考えています。

【山崎部会長】

・改めての確認だが、『資料編』はどのぐらいのボリュームでどのぐらいの点数の資料を掲載しないといけないのか。

【事務局】

・１冊 1,000 頁で、内訳は筆耕した資料が 900 頁程度、資料解説に 100 頁程度。資料点数は、大体 300～400 点くらい。インタビューに割り当てられるのは、100 頁から多くても 150 頁程度。

【山崎部会長】

・私もかなり資料を見つけていかなければならない。

【前田委員】

・道立図書館に道庁が開道百年事業関連で作成したと思われる「北海道開発振興功労者の声」という音声資料が所蔵されている。大物政治家から意外な方にまでインタビューした記録で、資料として使えるかもしれない。最近、ＣＤ化されて聴きやすくなった。

・ただし、田中知事などの大物のインタビューは、他の媒体のインタビューと同じことを語っている可能性もあるため、注意が必要。小さい町の首長のインタビューなどは貴重だと思う。

【山崎部会長】

・市町村関係では、非常にユニークな実践をしたようなところを掘り下げて『資料編』に載せたいと思う。広く知られているような実践は、『資料編』では、避けたいところ。

【事務局】

・市町村の資料については、事務局で市町村に連絡を行い、公文書等を見せてもらうことが可能かの確認を行っている最中。今のところ、最近、市史の編さんを終えたいくつかの市からは編さんで収集した資料を見せてもらうことは可能との返答をいただいた。

【前田委員】

・市町村だと、例えば、私の方で資料 1-2 の 1 頁にある『国税地方税改革意見書』という、1949 年に北海道町村会が作成した資料を立教大学で収集した。革新市長会であれば、横浜市史資料室所蔵の飛鳥田市長関連資料の中に一部あるかもしれない。知事会だと、東京都立公文書館にあったりする。

【山崎部会長】

・ご紹介のあった立教大学所蔵の資料は、年代的にシャウプ勧告の準備も行っている時期で、市町村財政が非常に窮乏しているから独自財源・税源を移譲してくださいという陳情の類いではないか。

・この頃は地方財政が困窮していて、信じられないような雑多な税をいっぱいかけて財源を集めようとしていた時代。戦後直後の地方財政がいかに困窮してたかのかが分かる資料が出てくる

と面白い。
【前田委員】
・戦後初期の地方財政の困窮に直面した市町村の首長でユニークな人物はいたはずなので、本人はすでに亡くなっている場合でも、個人資料が残っていると面白いかもしれない。
【山崎部会長】
・トピックスや人物を洗い出して、それに付随する報告書や行政資料を探していく作業を進めたい。
・あともう１つ、去年からアイデアとしては出ているが、裁判の判決を掲載していていくことも考えている。
【前田委員】
・「財政」や「経済」は、産業・経済部会との棲み分けは必要だが、どういう資料が適切か。
【山崎部会長】
・横路・掘道政であれば、行財政改革の時の議論をピックアップしてみるなど。堀道政の 90 年代後半に財政非常事態宣言が出てきて、北海道職員の給料の一部削減に着手するが、こうしたことは戦後のいくつかの段階であるので、その辺りから財政関連の話題を掘り起こしてみることは出来るかもしれない。
【前田委員】
・起債関係の話で何か自治省の資料があればいいかなと思っていたが、なかなか見つからない。経済関連だと拓銀は資料もあるが、産業・経済部会向きか。
【山崎部会長】
・拓銀が破綻した後にいかにその経済対策をせざるを得なかったのかは、これまでの道政関係者へのインタビューの中でも聞けたが、その経緯がわかる資料を見つけるのは難しいかもしれない。
【前田委員】。
・財政とか税制とかは、主に市町村の話として位置付けた方が面白いかなという気もする。
【山崎部会長】
・制限があるなかで市町村が独自の税制、独自の法定外目的税とかをどうやって作っていたのかを洗い出してみるというのも大事な作業かもしれない。
・あとは北海道が財政的に困窮していた 1960 年代ぐらいに超過税率といって標準税率よりも高い税を道民にかけざるをえないのを解消しようと国に陳情をしていた時期があって、対策協議会なんかもあったはず。細かい部分になるかもしれないが税制や財政制度が変わる時期をあぶり出すのも有効と思っている。
・北海道開発予算についても、高率補助・北海道特例の変遷について紹介していくことも検討している。
・夕張の財政破綻は 2006 年だから編さん対象からはずれてしまうが、旧産炭地域の窮状みたいなものも取り上げたいと思っている。
・1940 年代、50 年代に財政再建団体だった自治体の資料を掘り起こしていくことも検討したい。
【前田委員】
・札幌中心主義の相対化というか、根室・釧路など札幌と異なる利害や価値観を有していた道内各地の資料は入れようと思う。可能な限り多様な自治体、多様な地域の動きを取り上げたい。
・そういった各地域の資料を取り上げるという意味で先ほども話題にした分権論を大きく扱おうと思っている。旭川が当初大きな役割を果たしていたが、1980 年代になると道東に分県論の中心が移行していくという流れは是非取り上げたいと思っている。
【山崎部会長】
・では、資料調査については、いま話し合ったとおり進めていきたい。

・さらに『資料編』に掲載するリストを作る作業を始めていきたいと思うが、資料調査と並行してやることに問題ないか。
【前田委員】
・私の方は、収集している分野にややバランスを欠いているという懸念があるだけで、資料候補リストの作成と調査を同時並行で行うことは問題ない。
【山崎部会長】
・では、次の議事である担当分野の調整に移りたいと思う。

議事２（担当分野の調整について）
＜資料２＞
【山崎部会長】
・まず、資料２について事務局から説明願います。
【事務局】
・資料２は、現在の資料の収集状況等に基づいて、事務局で各委員の担当分野を色分けした「たたき台」のようなもの。あくまでも『資料編』の分担であって『通史編』執筆の際は、別途分担を考えても問題ない。
【前田委員】
・開発関係は 60 年代くらいまでで担当を分けることはできないか。
【山崎部会長】
・では、70 年代以降の開発の部分は私が担当する。市町村と財政のところは私も少し時代をさかのぼりながら前田委員とまざってやっていくという形でどうか。
【前田委員】
・市町村の行政的な資料や財政の資料は集めていないので、問題ない。
・道政はさらに政治と行政に分けたいと思っている。例えば、分県論とか田中知事の左派社会党離党とかは政治担当の私が、道庁内にどういう局を置くかという行政の話は山崎部会長みたいな形でどうか。
【山崎部会長】
・問題ない。
・オリンピック関連で開催に至る経緯などは、社会・文化小部会で担当する予定か。
【事務局】
・開催に至る経緯というよりは、開催当時の社会イベント的な取り上げ方になる予定。
【山崎部会長】
・政治史的には、戦前に行う予定だったのが実施できなくて、という経緯があるため、戦前・戦後の連続性や札幌の都市基盤の確立にオリンピックの与えた影響などが重要と思っている。
【前田委員】
・オリンピックの話をそうした道内での札幌の突出という観点から取り込むのは興味深い。また札幌市政をどこまで道史に書き込むかという問題にもなる。
【山崎部会長】
・札幌市は立派な『新札幌市史』があるので、そこをまず手がかりにしながら、道史として掘り下げていくことができれば面白いのではないか。
・ある程度は各分野で万遍なく 40～50 点ずつ取り上げたいと思うのだが。
【前田委員】
防衛だとその点数は厳しいかもしれない。安保反対運動を防衛として扱うか。
【山崎部会長】
・防衛や警察関連は、前の議題で話した裁判の判決をうまく使うのはどうか。

・他になければ、議事２は以上としたい。

議事３－１（その他）
＜今後の作業について＞
【山崎部会長】
・当初予定した議事は以上だが、追加で提案したいのは、先ほど提案した今年度中に 300～400 点にのぼる掲載資料を洗い出す作業と並行して、収集した資料や様々な人物へのインタビューを踏まえて、北海道史の見方・捉え方を前田委員がどう考えているのか、私はどう考えているかということをディスカッションする機会を作っていきたいと思っている。
・同様な観点がキーワードで、そうしたキーワードから戦後をどう捉えることができるかについて、両者の考えが共通しているか、逆に共通していない部分はどこなのかの確認も含めて、政治・行政の歴史を描く下準備的な作業をやっていきたい。全体の統一感を出すのにも必要ではないかと思っている。
【前田委員】
・了解。
【山崎部会長】
・最後に資料３及び資料４について事務局から説明願います。

議事３－２（その他）
＜資料３：編さんスケジュールについて＞
【事務局】
・資料３は、編さんスケジュールの確認として用意した。政治・行政部会の資料調査については、次年度中に終了していただきたい。ただし、次年度の追加調査も可能ではある。また、調査と並行して資料の選定作業についても進めていただき、掲載候補となる資料があれば随時、事務局まで連絡をいただきたい。
・政治・行政部会の場合、『資料編』を出版した翌年に『通史編』の出版が控えている関係もあり、『資料編』の資料調査・資料の選定・資料解説の執筆と並行して『通史編』の執筆も行っていただくことを念頭に作業を進めていただきたい。
・コロナの影響により遠方への資料調査は次年度も難しいと見込まれるが、状況を見て必要な調査は実施したいと考えているので、資料調査の希望がある場合には、事務局まで連絡願いたい。

議事３－３（その他）
＜資料４：道史編さん調査資料を研究発表に使用する場合の取扱いについて＞
【事務局】
・資料４は、道史編さん事業で収集した資料の取扱いについての注意事項。道史編さん事業で収集した資料を自身の研究発表に使用する場合には、事務局に相談をいただきたい。資料収集先の各団体・個人には、道史編さん事業に使用する条件で資料収集していることから、当事業以外での使用については、事務局から相手方へ説明を行い、必要な許可を得る必要がある。また、資料を使用した論文等の末尾に道史編さん事業の成果である旨を記載すること、論文等の成果物（２部）を事務局に提供することについてもご承知おきいただきたい。図書館や公文書館で一般に公開されているものは対象外とする。

３閉会
【山崎部会長】
・本日の議事は以上となる。

・事務局や前田委員からなにもなければ、これで終了とさせていただく。

（了）